


近畿ドキュメントサービス協同組合 (大阪市中央区)

デジタル化への転換と次世代経営者の育成	組合基本情報	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「複写事業」の衰退にともない、新たな「ドキュメントサービス業」を確立 ○ 小ロット・短期納品に適応するPOD生産設備をメーカーへ改善提案 ○ 業界承継のため次世代経営者育成に重点をおいた教育事業を実施 	

組合概要
<ul style="list-style-type: none"> * 組合は、近畿地区一円において複写業を営む事業者が構成員。 * 1963年に、業界の経済的安定と組織団結の強化を図ることを目的に、近畿工業写真協同組合として設立。その後、いくつかの改名を経て、2017年に「近畿ドキュメントサービス協同組合」と名称を変更して現在に至る。 * 設立以来、組合員企業のデジタル化転換を支援する事業を積極的に実施、組合員の経営の安定と合理化に重要な役割を担っている。また、次世代を担う経営者への育成に尽力、当業界の今後の振興発展に大きく貢献している。

キラリと光る取組の内容

- 小ロット・短期納品に適応するPOD（オンデマンド印刷）生産設備の改善提案
複写業界では2016年3月、感光紙の製造終了と共に「青写真」は終焉を迎え、デジタル化への転換による経営の安定と合理化を目指していたが、小ロット、短期納品を可能とするPOD（オンデマンド印刷）に見合う機械がないことが大きな課題となっていた。
組合では、執行部が中心となり検討を進め、事業にあう機械を求めて大手機械メーカーと交渉し、適したオンデマンド印刷機械の開発を依頼した。
これ以降、各メーカー数社により組合員の希望に見合う最適なオンデマンド印刷機械の開発がなされることとなり、組合員企業の業務振興発展に貢献している。今後も、新事業を共に発展させるためメーカーと共創を続けていく。
- デジタル化に対応する技術・技能・最新設備の情報や知識を習得するセミナーや研修会の実施
複写業界では、デジタルデータの入出力業務に適応するドキュメントサービス業への変革が全企業の必然的課題となっている。
組合では、これらの進化を具現化するきっかけとして、担当者別・職能別研修会を開催している。中でも日本ドキュメントサービス協同組合連合会（全国組織）で作成したPODガイドブックの普及やその本を教材にしたe・ラーニングにより、組合員及び各種メーカー担当者へPOD業務の理解と普及に努めている。
- 次世代経営者の育成ための教育事業を実施
業界の振興発展に次世代を担う経営者の育成は喫緊の課題となっている。
組合では、様々な情報交換ができる場を設え、業界の現状、最新技術や製品などの情報や知識を得るための勉強会を実施している。また、理事長や副理事長が業界の歴史と将来の構想、経営者としての心得、組合事業などを積極的に伝授・指導し、業界の今後の振興発展に尽くしている。

